

# 令和5年度 西東京市立向台小学校 学校評価報告書

**学校教育目標** ◎よく考える子(問題解決力、思考力・判断力、表現力の育成)、◎健康な子(自己の健康・生活を見つめる力の育成)、◎思いやりのある子(人間関係形成力の育成)、◎進んでやりぬく子(困難な課題に向かう力の育成)

**目指す学校像(ビジョン)**

- 【目指す学校像】 緑いっぱい 子供たちの笑顔があふれる学校
- 【目指す児童像】 構想力を身につけ、深く考えることができる児童、自他を尊重し、共生の意識をもつことができる児童、規則正しく生活し、心と体を健康に保つことができる児童
- 【目指す教師像】 教育公務員として「チーム向台」を常に意識し、確実に職責を果たせる教師

**前年度までの学校経営上の成果と課題**

【成果】全教員は、授業改善推進プランを活用し、目指す児童像に向けた授業改善の取組を行うことができた。※全教員がICT機器を効果的に活用し、目指す児童像の具現化に努めた。  
 【課題】授業改善に向け、教員同士で意見交換・協議等を日常的に行い、高め合うなどの組織的風土の構築及び、授業改善の取組内容の確実な向上

	具体的方策		自己評価		分析・改善方策	学校関係者評価	次年度の重点・方針
	取組目標	達成目標	取組目標	達成目標			
確かな学力	①「学習・生活のきまり」を生かした指導の徹底及び充実 ②「向台タイム」等での基礎的学習の充実、ミム教材を活用した支援		4	4	①②学校は、「学習・生活のきまり」に書かれている観点を活用した指導を確実に実施した。また、「向台タイム」では、全児童に「ラインズeライブラリ」等を用いた補充学習等を実施し、基礎学力向上に努めた。①は、約9割の児童が、その指導から期待される行動をとることができた。②は第5学年の「東京ベーシック・ドリル」の診断テストの平均正答率は1Pアップ。 ■基礎的な学力の定着、学力低層層に対する支援の充実	○「学習・生活のきまり」を基に、向台タイム等を活用した。その成果の表れが東京ベーシックドリルの正答率アップに繋がっていると思われる ○タブレットを使用した学習が馴染んできており、活用により学習の質の向上がみられる。学習レベルに合わせた活用法に期待したい。 ○タブレット操作面等で活用課題していない児童がいることを、今後の課題としている。	【規律正しい学習の充実】 全学級で「学習・生活のきまり」や学習・生活スタンダードを生かした指導の確実な徹底を図り、児童が安心して学習に取り組める環境づくりに努める。 【基礎学力定着の徹底】 「ラインズeライブラリ」「東京ベーシック・ドリル」、MIM教材等を活用し学習支援を行う。向台タイムでは、各教材でのアセスメントを基に個々に対応した補習学習を行う。 【授業改善】 学校が目指す児童「深く考えることができる児童」の育成に焦点を絞り、年間を通して「授業改善推進MYプラン」を活用した授業改善を行う。
	③「授業改善推進MYプラン」にICT活用を位置付け、学校経営方針の重点とする「深く考えることができる児童」の育成に向けた取組の充実		3	3	③教員は「授業改善推進MYプラン」等を基に、学校経営方針に示す授業の具現化に努めた。約8割の児童は、その指導から期待される行動をとることができたと回答。 ■児童が主体的に深く考える場や教材を取り入れた、計画的・意図的な指導等の一層の充実		
豊かな人間性	④別業を用いて各教科等の関連を図りながら実施する、道徳科授業35時間の確実な実施		4	4	④道徳授業地区公開講座の場や道徳の評価方法に係るOJTで、管理職及び道徳教育推進教師が各教員に指導・助言し、「特別の教科 道徳」に係る授業力の向上に努めた。教員の自己評価でも全員が「考え、議論する」道徳に合う授業実践に努めたと回答。 ■教員の、「考え、議論する」道徳に資する授業実践の継続	○児童全員が「考え、議論する」授業実践を継続課題としている点はとても良い。 ○豊かな人間性＝他人に対する想像力だと思う。そこが成熟してくればいじめ等の問題もなくなってくるのではないかな。引き続き尽力して欲しい。	【「特別の教科 道徳」授業改善】 道徳授業地区公開講座を活用し「考え、議論する道徳」の授業改善に取り組む。道徳教育推進教師が授業のポイントや評価について研修を行い指導力向上を図る。 【児童が発信する課題解決の継続】 高学年を中心とした学校の課題解決を推進する。タブレット端末や放送を活用し、全校児童に働きかけ自分事として取り組む態度を育成する。また、「学習・生活のきまり」や道徳教育とリンクさせ、挨拶や廊下歩行の意味を価値づける指導を行う。
	⑤地域、近隣校等協働による「あいさつ運動」、児童会のリーダーシップによる主体的な取組(挨拶週間、廊下歩行週間)、動植物愛護等活動		4	3	⑤「あいさつ運動」、各学年における体験的な活動の実施を通して、心の醸成を図った。児童で組織した挨拶実行委員や代表委員会、保健委員会では、挨拶、廊下歩行等本校の課題解決に向けた取組を行ったが1割の児童が自ら挨拶を、2割の児童が正しい廊下歩行ができなかったと回答。 ■学校の課題等に児童自らが解決策等を考え、実践する取組の充実(継続)	○コロナ禍以降、子どもたちの挨拶が少なくなってきたと感じている。家庭と連携し、元気な挨拶で一日スタートさせてほしい。	
総合的な体力	⑥コーディネーショントレーニング等校内研究と関連する体育授業の実施 ⑦ダブルダッチ等縄跳びによる体力向上の取組		4	3	⑥⑦学校は、コーディネーショントレーニングを取り入れた体育授業を全学級で実施した。全学年でダブルダッチ、大縄の授業を実施した。第5学年は、演技発表会でも学習したダブルダッチを取り入れた演目に取り組むなど、学びの充実を図った。 ■校内研究(体づくり運動・遊び)等で得た成果及び課題、講師の指導等を踏まえた、体育授業の変革(全学級)	○コーディネーショントレーニングを取り入れた体育授業、ダブルダッチ等はコロナ禍を考えると非常に有効である。感染症病にあっても新しい観点から新しい企画を実践していることを大いに評価したい。「運動の日常化」を目指して、継続課題として取り組んでほしい。	【体育科授業の充実】 体育健康教育の推進を図る。体育では、体づくり運動・遊びを中心とした校内研究を実践する。達成感を得られるスモールステップの授業展開、タブレット端末の活用、動きを広げる場の設定等を柱に授業改善を行う。保健では、児童の実態を踏まえ、養護教諭や外部人材と連携した指導を行う。 【業間の取組の充実】 大規模校である本校の課題「運動できる場所と内容」について継続して取り組む。体育館、屋上を計画的に活用し、運動量を確保できるダブルダッチを中心に児童の体力の向上を目指す。
	⑧教育活動全体で取り組む、「なわとび月間」「マラソン月間」等業間の時間を活用した体育の実施		4	3	⑧体力の向上の取組を確実に行った。運動に係るアンケートに肯定的評価であった児童の割合は8割強であった。 ■否定的評価を行った児童、運動を苦手とする児童に焦点を当てた取組の改善	○運動をしている子と、していない子の二極化が進んでいる。運動が苦手な子の体力向上が課題だと思う。	
健全育成(いじめ防止)	⑨西東京あったか先生推進担当教師による毎月の確実な研修の実施及び、管理職からの定期的な啓発と研修		4	4	⑨学校は、毎月の人権研修に加え、冊子「使命を全うする」を用いた服務事故防止研修(1学期実施)、「ふくむニュースレター」等による定期的な研修を通じて、教員の服務事故防止に対する意識高揚を図った。教員の自己評価でも全員が「あったか先生」の趣旨に沿った行動をとることができたと回答。	○いじめ防止リーフレットを浸透させて地道に指導を続けていく欲しい。いじめ問題は保護者の関心が非常に高い。学校からの発信力を高め、タイムリーな情宣が必要。今後、保護者も含めて成果が表れるのを期待したい。	【高い人権感覚をもった指導の充実】 全児童が活躍する場や機会を意図的に設定した居場所づくりを行う。また、自己肯定感を高める授業を行う。 【いじめに係る取組の充実】 年3回のふれあい月間での取組を充実する。学校満足度アンケート等で得た児童の情報に早期対応し、継続した聞き取りや指導を行う。学級活動道徳等でも、いじめについて取り上げ、児童自らが考える学習の充実を図る。また、本校が作成する「いじめ防止リーフレット」や「学校いじめ防止基本方針」の周知をさらに強化し、保護者と共通理解を図ったいじめ防止の指導を行う。
	⑩「いじめ防止リーフレット」を活用した授業等の実施 ⑪「いじめ防止リーフレット」を活用した保護者への啓発		4	4	⑩⑪「いじめ防止リーフレット」を作成し、全学級でいじめ防止に係る指導を行った。児童アンケート「いじめはどんな理由があってもいけない」で、6%の児童が否定的回答をした。また、家庭向けリーフレットを作成・配布したが、3割の保護者が取組を認知していなかった。 ■いじめ防止等に係る取組は、年度当初の保護者会等での確実な周知及びいじめ防止等に係る取組の学校便り等での発信	○いじめ問題に注力してもらい感謝している。この問題にゴールはないので常に目を光らせてほしい。	
業務改善・働き方改革	⑫主幹教諭・学年主任による退勤時間の管理、水曜日17:30退勤徹底 ⑬教員による、業務の見直し・改善の提案		4	4	学校は、⑫～⑬の内容を確実に実施し、勤務時間の管理を行った。また、⑭⑮の取組を鋭意行った。その結果、約3割の教員の月あたりの時間外勤務45時間以内に収まった。学校業務全体のスリム化及び業務の平準化も進んでいる。月末に超過勤務時間を各教員に伝えることにより、教員の時間外勤務削減に対する意識付けを行い、改善を図ろうとしている。 ■負担感軽減の取組の一層の充実	○業務全体のスリム化及び業務の平準化は非常に大切。山積みする教育課題に対応して、メンタル過労にならないように「教員のカウンセリング体制」を充実してほしい。先生あつての学校なので、引続き自身のケアを大事にしていきたい。 ○新採用の先生への教育時間(OJTなど)の時間が必要だと感じる。	【働き方改革の充実】 (重点1)週予定におけるTO DOリスト等を用いた業務の見える化と、取組を通じた達成感の獲得 (重点2)担任業務軽減に向けた、副担任制度の充実 (重点3)校務分掌組織の改定と、共通したねらいの取組の精選化 (重点4)教科担任制を見据えた一部教科の交換授業を行い、教員の資質・能力の向上に係る効率的な教材研究の推進。 また、ICT機器の活用で打合せ時間の短縮、教材作成の効率化を図り、児童と向き合う時間を確保する。
	⑭校務分掌毎の組織目標設定と、目標達成に向けた取組の精選化(削減、縮小)⑮副担任制度の質的向上(事務作業、児童対応等の負担)		4	4	【重点1】TO DOリスト等を用いた業務の見える化、取組を通じた達成感の獲得、【重点2】担任業務軽減に向けた、副担任制度の取組の充実、【重点3】校務分掌組織各部の目標設定と、目標達成に向けた取組の精選、【重点4】教科担任制を見据えた、一部教科の交換授業を先行実施		